

II

人権教育を推進するうえでの課題として

人権教育の推進においては、人権を尊重するものの見方や考え方を育てるとともに、同和問題など個別の重要課題の解決をめざさなければなりません。

そのためには、個別の重要課題について科学的な認識を深めることが必要となります。同時に、個別の重要課題を人権問題という本質からとらえることができる人権意識・感覚を培う営みも大切になります。この双方向からの取組が相まって、人権が大切にされる人づくり・社会づくりが実現されるものと考えます。

ここでは、人権教育を進めるうえでの課題を次のように整理してみました。

(1) 基盤となる人権意識を確立する課題

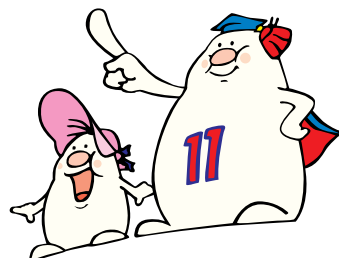
平成8(1996)年に出された地域改善対策協議会意見具申や、平成9(1997)年の「人権教育のための国連10年」国内行動計画では、人権教育には「固有の問題点についてのアプローチ」と「普遍的な視点からのアプローチ」があり、「その両者が相まって人権意識の高揚が図られる」と述べられています。この「普遍的な視点」が、基盤となる人権意識や人権感覚と深くかかわりをもっています。

これまでの取組の成果として、「人権は大切だ」「差別はいけない」という一定の理解が定着してきました。しかし、「人権や差別の問題を自分の問題としてとらえることができていないのではないか」「日常生活のなかで行動や態度となって表われていないのではないか」といった指摘があります。

平成6(1994)年、国の地域改善啓発センターが実施した調査によると、「世の中のしきたりや風習に従う方が社会生活を送るうえで間違いがない」という問いに、「そう思う」「まあそう思う」と回答した人が76.6%存在しています。また、「自分一人がいくら努力しても社会全体を良くすることにはならない」という問いに対しては、56.7%の人が「そう思う」「まあそう思う」と回答しています。「世間」に同調する意識とともに、社会をより良く変えていこうとする意識の弱さが伺えます。

人権を尊重する意識を育成するためには、人権についての確かな知識とともに、他者の願いや思いを受け止めることができる感性が必要です。このような感性は、身近な生活のなかから人権に関する課題を見つけることや、自分自身の経験に照らし他者の思いに気づくことから生まれてくるものです。また、地域等で行われる参加体験型学習等の活動を通して、日々の生活における具体的な行動につながるための実践的な技能の育成を図りたいものです。

人類の長い歴史は、人権が普遍的に存在することを明らかにしてきました。それを法によって具体化してきました。主体的に権利を行使し、その責任を果たすための資質につながるものとして、人権意識の確立が必要であると考えます。



(2) さまざまな差別問題、人権侵害を克服する課題

私たちの周りには、人権が不当に侵害されている現実があります。「人権教育のための国連10年」奈良県行動計画では、同和問題、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人、HIV感染者等、アイヌの人々や刑を終えて出所した人にかかわる人権問題があげられています。また、近年、インターネットによる人権侵害やドメスティックバイオレンス、セクシャルハラスメント、いじめや児童虐待など、人権に関する新たな課題もみられます。これらの課題の解決に向けてそれぞれの人権問題について科学的な認識を深め、差別をなくす技能・態度の育成をめざすことを、人権教育の重要な内容としてとらえることが必要です。

その際、次の点について踏まえておきたいものです。

まず、「ちがい」を豊かさとしてとらえ、共に生きていく社会をどのようにつくっていくかということです。私たちの社会には、人種や民族、あるいは生活文化がそれぞれに異なり、個性や価値観もちがうさまざまな人々がくらしています。これらの「ちがい」を否定して同質化を求めたり、同質なもののなかにちがいを作り出し、序列化して排除するような状況を認めてはなりません。

それぞれの人権問題には、人間の尊厳を侵すという共通性があるとともに、独自の社会性や歴史性が存在しています。例えば、同和問題は、我が国の歴史のなかで地域社会の仕組みや意識の在り方にかかわる人と人との関係のなかで生まれてきた人権問題であり、女性問題は、歴史的、社会的、経済的構造を背景とした「性差」意識から生じている人権問題です。これら固有の背景を明確にとらえ、それぞれについての正しい理解と認識を深める営みを大切にしていかなければなりません。

次に、これらの差別問題、人権侵害を温存するものの方や考え方が私たちの地域や日常生活に深く入り込んでいるということです。日々のくらしのなかにある課題とそれぞれの人権問題をかかわらせながら取組を進めていくことが求められます。

今後の展開においては、これらの点を踏まえ、「人はなぜ差別をするのか」という課題にも迫りながら、人と人との関係を豊かに結ぶことができる「人づくり・地域社会づくり」として進める必要があります。



「人権・健康・文化まつり」にて
(撮影場所 曾爾村内)

